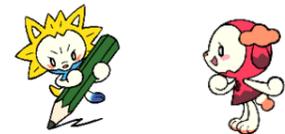




研究主題 主体的に学び続ける児童の育成

—学習者全員が自分ごとの課題として探究することのできる単元構成と発問と個への手立ての工夫を通して—



本校の児童の課題

- 基礎学力の定着が不十分。
 - 生活体験、読書量の不足などによる語彙量の不足。
 - メディアに費やす時間が多いため、家庭学習が未定着。
 - 自己効用感が低く主体的に学習に取り組めない。
- という課題を受け、国語科を中心に特に□個のつまづきの実態把握と要因分析
◇視覚化・焦点化・共有化による手立ての工夫
を視点に授業改善に取り組んだ。
また、授業以外ではドリルタイム・チャレンジカード・放課後補充学習等を行うことで、課題の克服に努めた。



研究の柱①

単元構成の工夫

研究の柱②

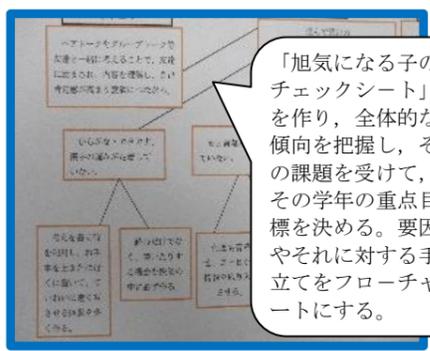
発問の工夫

研究の柱③

個への手立ての工夫

(1) 個の実態把握と要因分析

要因分析フローチャート



学習の系統性 (例 第1学年説明文)

読みの系統	読みの技能	読みの用語
第1学年	くちばし	
	じどう車くらべ	
	どうぶつの赤ちゃん	

単元の付けたい力の系統性を明確にする。

要因分析シート

【字に課題のある児童のつまづきの実態とその手立て】

学年	1年	2年	3年
読みの技能	読みの技能		
読みの用語			

付けたい力に絞り、レディネステストやノート、授業の様子、アンケートなど様々な方法でどの段階でつまづいているかを把握する。

実態把握から、具体的な手立てを考える。

(2) 視覚化・焦点化・共有化による個別の指導の工夫

「筑波読みの系統性」より

視覚化 (文章を見える化)

(具体物・動作化・色分け・構造化された板書)

第1学年「じどう車くらべ」

- Point: 比較しやすいように3つの事例を縦に並べた一枚ものの教材文にする。
- Point: 事例を色分けし、文章構成を理解させる。
- Point: 児童用のワークシートと板書を同じものにする。
- Point: どこを読んでいるか、書いているのが分かるように目印をつける。
- Point: 写真や具体物等を活用して、イメージ化させる。
- Point: 教師が考えを引き出して文章にして、写させる。
- Point: 構造化した板書にする。
- Point: 自動車図鑑づくりでは、何度も同じパターンで書かせ、書き方を理解させる。

焦点化 (何をどう考えるか)

(会話やキーワードの数を数える・重要度を考える・選択肢から選ぶ等)

第2学年「スイミー」発どの会話が一番大切?

Point: 出てくる4つの会話文の中でどれが一番大切かを考えさせることで、詳細を読む。名前磁石を使い、考えをはっきりさせる。対象児童には、自分の考えに近いヒントカードを選ばせ、考えを書かせる。

第4学年「ごんぎつね」発ごんがしたつぐないはいくつ?

Point: ごんがしたつぐないの数を数えることでごんの心情の変化を捉える。数えることで授業に全員参加でき、自分の考えをもつきっかけになる。

第6学年「帰郷」発『行こっか。』は『律』『周也』のどちらの言葉?

Point: どちらの言葉が考えることで二人の心情の変化を捉え、人物像を明らかにする。考えることを焦点化させ、今までの読みを統合して考えさせる。

共有化 (誰もが伝え合える工夫)

(様々なグループ活動の工夫・効果的な言語活動)

第1学年「うみのかくれんぼ」

Point: 「かくれんぼめいじんはどれ?」グループで話し合った考えを動作化する・図に書き込む・具体物を使うなど児童に表現方法を選ばせることで、理解を深める。

第2学年「お手紙」

Point: 児童の読み取った人物像や相互関係をもとに、教材の会話文に新たなセリフを加え、音読劇を行う。

第3学年「まいごのかぎ」

Point: 自分の解決したい課題別(うさぎはどうして最後にいいの前にあらわれたのか・かぎが消えたのはなぜか・よけいなこととは)でグループになり、話し合う。

第5学年「固有種が教えてくれること」

Point: 「一番大切な資料は?」という課題に対して同じ考えの友達どうしてグループになり、そう考える理由をホワイトボード等を使い考える。

ドリルタイム

楽しく語彙を増やす取組や基礎学力を身に付ける取組を行っている。

ことバンク Day

かりかりDay 百人一首 ワードスナイパー

よむよむDay おごろくトーク ワードバスケット ごい夢中

教材ルーム・教材フォルダーの共有

児童の理解に有効だった教材教具をみんなで共有し、さらにバージョンアップできるように教材ルームや教材フォルダーを作り、活用している。

全校体制での宿題チェック

児童の理解度を知り、その日のうちに直しをさせることで、やり切る力を付けると共に基礎学力を身に付けさせることをねらいとして、宿題点検と直しを全校体制で取り組んだ。担任だけでなく第1、2学年は研究推進教員、第3、4学年はFU教員、第5、6学年は管理職と教育上特配員で見る。

チャレンジカード (家庭学習強化週間)

チャレンジカードを使い、学習習慣を身に付ける取組を行っている。保護者と連携して学期に1回、1週間強化週間を実施している。

- ・起きる時刻
- ・テレビ・ゲームの時間2時間以内
- ・寝る時刻
- ・決められた時間学習する。
- ・宿題をやり切る。



放課後補充学習 (寺子屋あさひ)

学習意欲の向上と家庭学習の習慣化

- ・「寺子屋あさひ」と称して、週3回の放課後補充学習を実施する。
- ・宿題を中心にした復習や、つまづいているところを二人の指導者が教える。分からないところは教えるだけでなく、学習の仕方を教えるように支援する。
- ・目標や振り返りを書いた「ぐんぐんカード」を、毎回先生や保護者が評価することで自分の成長を実感させ、自己効用感を高める。

対象児童の変容

○単元テスト全国平均との差 (%)

教科	H30	R 1	R 2	年度差
国	-17.3	-9.3	-12.8	+4.5
算	-16.7	-14.7	-14.1	+2.6

○意識アンケート (%)

	H30	R 1	R 2
進んで学習する	50.0	58.3	54.5
分かるまで努力する	40.0	42.0	45.5

○チャレンジカード (%)

	H30	R 1	R 2
家庭学習の定着	16.6	61.0	63.6

対象児童の声より

漢字をていねいに書いたことをほめると「昨日までのおれと今日のおれはちがう。」と、自信たっぷりの声で一言。

ある児童がドリルの一問目から「分からん。」とつぶやくと、隣の子が「最初からあきらめてどうするん。できないと思ったらできない。できると思ったらできる。」と一言。

このように、学習に前向きな児童が少しずつ増えてきた。

「寺子屋あさひ」での様子

寺子屋に来ると、ぐんぐんカードを出し、宿題をもくもくとやり始める。分からない問題があると教科書を開いて調べている。どうしても分からないときは「先生分かりません。」と聞くようになってきた。

寺子屋あさひ児童アンケート

- ・いっぱい先生におしえてもらえるから、うれしい。
- ・家では、いつまでたってもしゅくしゅくできないけれど寺子屋に入って、わからない問題でもあきらめずにできるようになったから、楽しい。

学びを支える環境

